

1. 単元名 人はなぜ働くのだろう ―仕事を通して自己の生き方を考える―

2. 単元の目標

- ・ 働くことの意義と自分自身の生き方との関わりを理解することができる。 (知識・技能)
- ・ 働くことの意義について、自分で課題を設定し、見通しをもって情報を収集し、整理・分析して、目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 課題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

文部科学省が出している「中学校職場体験ガイド」によると、職場体験が求められる背景として、子どもたちの生活や意識の変容、学校から社会への移行をめぐる様々な課題、そして、何よりも望ましい勤労観、職業観を育む体験活動等の不足が指摘されている。そこで職場体験を実施することで、生徒が直接働く人と接したり、実際的な知識や技術・技能に触れたりすることを通して、働くことの意義や学ぶことの必要性などを理解し、生きることの尊さを実感させることができる。このことは、生徒が主体的に進路を選択し決定する態度や意志、意欲などを培うことのできる教育活動として、重要な意味を持っている。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、第1学年で、防災や福祉について学習し、認知症の方や市役所の防災担当の方の講話を聞いたり、高齢者疑似体験や段ボールベッドを作ったりしている。そして、学んだことを模造紙にまとめ、掲示し、評価し合うことを行っている。これらの学習を通して、ゲストティーチャーによる講話や実践が生徒の意欲を高めることや、まとめる活動により生徒の考えが整理されて意見交換で考えが深まることが分かった。また、働くことについての事前調査によると、働くことはお金を稼ぐためだけと考えている生徒がほとんどであることが分かった。そして、学校での自分の役割をきちんと果たしている生徒が少ないことも分かった。

以上のことから、まず、ゲストティーチャーなどの様々な方に関わってもらうことを通して、働くことについての視野を広げる。次に、まとめる活動で自分の考えを整理して意見交換で深める。これらのことを通して、生徒は働くことの意義や自分自身の生き方について自分の考えをまとめることができ、将来の自分の役割を考えることにつながると考える。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、働くことについて関心を持ち、働くことについて調べる活動や実際に働く活動を通して、働くことの意義や自己の生き方を考えることをねらいとする。

まず、みつめる段階では、働くことについて知っていることを出し合って、働くことの意義についてどの程度理解できているか自己分析を行い、その状況に応じて課題を設定する。しらべる段階では、見通しを持って身近な人にインタビューしたり本やインターネットを使って調べたりして情報を収集し、整理する。深める段階では、職場体験活動に取り組み、体験して得た情報と今までの考えを比較したり関連付けたりしながら働くことの意義について考えを深めさせる。広げる段階では、ボランティア活動をされている方の講話・意見交換を通して、働くということを実生活と結びつけて、これからの自分の役割を考えさせる。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・多様性…働く内容や理由、問題などは様々あり、いろいろなことを抱えながら働いていること。
- ・相互性…人や物などがつながることで、働くことが成立し、社会が循環していること。
- ・公平性…職種など男女平等であり、働く権利を誰もが持っていること。
- ・連携性…一人だけが働くのではなく、多くの人が協力し力を合わせる大切であること。
- ・責任性…自分の役割を自覚し、自分の行動に責任を持って取り組むこと。

○本学習で育てたいESDの資質・能力

- ・多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）
働くということは、様々な人やものなどのつながりや関わりによって成り立っていることを調べたり職場体験をしたりして気づき、働く意義と自分の生き方を広い視野で考える力。
- ・コミュニケーションを行う力
職場体験先で関わる方やボランティアをされている方と対話する場面で、自分の気持ちや考えを伝えるとともに、相手の気持ちや考えを尊重し、積極的に関わる力。
- ・つながりを尊重する態度
職場体験先で関わる方やボランティアをされている方などとの関わりを通して、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているということを実感し、尊重しようとする態度。
- ・進んで参加する態度
自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解し、その役割を全うしようとする態度。

○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代内の公正
児童労働や男女の給料格差などの問題をなくし、ディーセントワークを目指す社会が大切であること。
- ・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。
自分が社会から求められていることを自覚すること

○達成が期待されるSDGs

- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 8 働きがいも経済成長も
- 10 人や国の不平等をなくそう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 働くことを多面的に捉え、働くことの意義を理解することができる。	① 働くことの意義について、調べたことを分類したり、表現したりできる。	① 働くことに興味をもち、意欲的に調べたり、まとめたりなどの活動をしている。
② 働くことの意義を考える学習が、今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解している。	② 自分の考えをまとめ、適切な方法で表現することができる。	② 積極的に交流しながら働くことについて考えている。

5. 単元の指導計画（全25時間）

主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1 働くことについて知っていることを出し合い、課題を設定する。（1時間） （1）知っていることを出し合う。 ・お金を稼ぐために働く ・公務員の仕事をする人がいること ・労働に関する諸問題 など （2）課題を設定する。 ・お金を稼ぐために働く以外に何のために働くのかを明らかにする。	・自分が思いつくことを全て出し合わせるために、働くことを広く捉えさせ、間違いはないと安心させる。 ・追究可能な課題を設定させるため、机間指導をして個別指導をする。 ・先の見通しを持たせるために「職場体験活動で見つけてこよう」と声かけをする。	△ウ① （主体的）
2 働くことについて調べる。（5時間） （1）身近な人にインタビューする。 （2）本やインターネットで調べる。 ・働く理由 ・仕事の名前 ・FIRE ・働く問題 ・働き方 など （3）調べたことを分類したり、表現したりする。	・父母や祖父母、親戚などにインタビューさせるが、それでもいない場合は、他学年の教員にインタビューさせる。 ・課題に応じた情報を集めさせる。 ・課題に応じて項目を絞って、分類して表現させる。	△ウ① （主体的） △ア① （知・技） △イ① （思判表）

<p>3 職場体験活動を行って、働くことについて考える。(15時間)</p> <p>(1) 職場体験活動の事前学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 礼儀やマナーの学習 <p>(2) 職場体験活動を行う。</p> <p>(3) 職場体験活動で学んだことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験先で失礼のないように、社会のルールやマナーを確認させる。 ・ 積極的に活動を行うように、声をかけながら体験先を見回る。 ・ 体験の様子が分かりやすいように、写真を用意する。 	<p>△ウ① (主体的)</p> <p>△ウ② (主体的)</p> <p>△イ② (思判表)</p>
<p>4 働くことについて自分の考えを再構成し、今後の生き方を考える。(4時間)</p> <p>(1) ボランティアの方との交流活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講話 ・ 意見交換 <p>(2) これまでの学習で自分の考えがどのように変わったのかを振り返り、今後の生き方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ さらに働くということの考えを広げるために、ボランティアの方の講話を聞き、意見交換をさせる。 ・ 働くことの意義を考えることから、今後の自分自身の生き方を考えることに繋げるために、これまでの学習を振り返らせ、まとめさせる。 	<p>△ウ② (主体的)</p> <p>△ア② (知・技)</p>